

バルト三国と日本の写真を比較する共同研究プロジェクト
「The Humanist Link between Japan and the Baltics」研究発表のお知らせ。
写真展「Human Baltic われら バルトに生きて」にて。

KOI NIPPON
5月21日（火）



アレクサンドラス・マシアウスカス シリーズ「農村市場」より

NGO 団体KOI NIPPON は、2024 年5 月27 日（月）から6 月9 日（日）まで、スパイラルガーデン（東京都港区南青山5-6-23）にて、国内初となるバルト三国ヒューマニスト写真展「Human Baltic われら バルトに生きて」を開催します。同展覧会では、写真が抗議を表現する媒体としてどのように機能したかを探るため、バルト三国と日本の写真を比較する共同研究プロジェクト「The Humanist Link between Japan and the Baltics」を実施し、その研究発表を行います。

バルト三国で起きたヒューマニスト写真運動とは？

第二次世界大戦の影響で起こったヒューマニスト写真運動は、一人一人の人間性の重要さに光を当て、平和を推進してきました。バルト三国に生きたヒューマニスト写真家達は、宗教、性、貧困、国民のアイデンティティ、占領のトラウマなど、特定のトピックを撮影することを禁じられていました。しかし、あるがままの姿に焦点を当てたいと考えた写真家達は、真の意図を隠さなければなりませんでした。そこで、視覚的な比喩や、隠れメッセージ、「イソップ言語（検閲を逃れるための特殊なコミュニ

ケーション言語)」などを用いながら、ヒューマニスト写真家達は表現の自由、アイデンティティの自由、そして真実の記憶の自由のため、絶え間なく立ち向かいました。写真家の視点を通して、ソ連時代を生きたバルト三国の人々のありのままの姿を感じながら、人生の力強さ、優美さ、複雑さをご覧ください。

研究プロジェクト「The Humanist Link between Japan and the Baltics」

同プロジェクトでは、日本、リトアニア、ラトビア、エストニアからキュレーターや美術評論家を集め、エッセイを執筆しました。日本とバルト諸国は、地理的および文化的距離があるにもかかわらず、両地域の写真家は自らの芸術を通して、社会状況を記録し、批評してきました。これらの類似点を調査した結果、ヒューマニスト写真の普遍性やそれが担う役割についてより深く理解することができました。この研究を実施し、広めることで、同プロジェクトは芸術家たちの抵抗を称えるだけでなく、彼ら・彼女らの物語や貢献を忘れ去られないようにも努めています。同記事は本展公式ウェブサイトでご覧いただけます。

公式ウェブサイト「Human Baltic われら バルトに生きて」エッセイ

<https://humanbaltic.com/ja/essays>

※このプロジェクトは東芝国際財団の支援を受けています。

参加研究者

アグネ・ナルシンテ

リトアニア出身。本展メインキュレーター、芸術批評家。

アグネ・ナルシンテ氏は、リトアニアの写真家5人を選び、記事「リトアニアにおける写真による二重話法への招待」を執筆しました。同記事では、国営テレビでカメラマンとして働いていたアルゲルダス・シャシュコス、宗教的な祝祭を撮影したロームアルダス・ポルジェルスキス、田舎の市場を撮影したアレクサンドラス・マシアウスカス、海辺を撮影したアルギマンタス・クンチュス、そして自分自身のヌード写真を撮影したビオレタ・ブベリーテを取り上げ、5人の写真家がいかにソ連という体制が課したイデオロギーの枠から精神的に逃れたのか言及しています。

ジュリア・ロデングリヤマ

ラトビア出身。写真研究者、FKマガジン編集者。

ジュリア・ロデングリヤマ氏は、ラトビアの写真家6人（グナース・ビンデ、ゼンタ・ジヴィジンスカ、マーラ・ブラフマナ、アンドレス・グランツ、グヴィドー・カヨンス、アイヴァース・リアピンシュ）を選び、記事「ラトビアのヒューマニスト：人間中心主義写真～フォトクラブの枠組みから自由を目指す闘い～」を執筆しました。同記事では、ラトビアがソビエト連邦に占領された時期および加盟国として属していた時期（1940年から1990年）、いかにアマチュアのフォトクラブ文化が花開き、ラトビアの写真史を発展させてきたか言及しています。この時期は、報道写真だけがプロとして認識されていましたが、アマチュアのフォトクラブ文化が栄え、教育や批評、支援などを担い、展示会や大会などの機会も提供しました。これらのクラブは国中に広ま

り、芸術として公式には承認されませんが、独自の写真文化を作り上げました。

トーマス・ヤールベルト

エストニア出身。映像作家、映像人類学者、Juhan Kuus Documentary Photo Centre共同設立者。

トーマス・ヤールベルト氏は、エストニアの写真家6人（ペーター・トーミング、カリユ・スール、エネ・カルマ、アルノ・サール、ペーター・ランゴヴィッツ、ティート・ヴェルマーエ）を選び、記事「ソ連時代のエストニアにおける人間中心主義的な写真の可能性について」を執筆しました。同記事では、ソビエト時代のエストニアにおけるヒューマニスト写真の課題を探究し、占領期（1940年から1990年）中の抑圧と軽視について言及しています。当時、写真は芸術形態とは見なされず、正式な教育も欠けていました。1960年代に写真クラブが出現し、アマチュアからプロまで含む民主的な環境を整えましたが、厳格な検閲のため、本物のヒューマニスト写真は希少でした。その中でも、ペーテル・トーミング、カルユ・スール、エネ・ケーレマなどの写真家達は、体制に挑戦し、写真を芸術形式として高めていきました。

渡部真也 (B)

日本出身。写真家、テンプル大学ジャパンキャンパス アート学科 上級准教授。

渡部真也氏は、記事「我が祖国——土門とマツィヤウスカスの二人称リアリズム」を執筆し、戦後日本のリアリズムの先駆者である土門拳と、リトアニアの写真家アレクサンドラス・マシアウスカスの作品の中に類似点を見出しました。両者は、「被写体とカメラとの直接的な関係」を具体化し、生々しい、仲介されていない人間の経験を捉えています。土門拳の作品には、「ヒロシマ」や「筑豊の子どもたち」などの力強いドキュメンタリー作品が含まれており、アレクサンドラス・マシアウスカスの作品には、リトアニアの田舎市場シリーズを通して田舎の活気あるダイナミックな生活が描かれています。両写真家は、どちらも報道カメラマンの経験があり、報道的な三人称視点が、その後テーマ性を重視した二人称リアリズムへと移行し、人間の不変性と美しさを強調しています。

プレス内覧会

日時：5月27日（月）18:00～20:00（受付開始：17:30～）

報道関係者を対象に、プレス内覧会を実施いたします。

ご多忙のことと存じますが、ぜひご取材くださいますようお願い申し上げます。

ご希望の方は下記フォーマットにご記入ください。

<https://forms.gle/N6E313Bk9vBauhfw8>

広報用画像

公式サイトまたは以下からダウンロードください。

https://drive.google.com/drive/folders/1wEalYerk3WHp5-RzlgmyNBCLbrG2z_Ck?usp=share_link

- ・作家名、作品名、年代を必ず掲載してください。（キャプションは、画像のタイトルに記載のものをご掲載ください）
- ・画像は全図で使用してください。文字を重ねる、トリミングなどの画像の加工はできません。

プレスお問い合わせ先

PR担当（菊池）

メールアドレス：hiromi@koi.lt

展覧会概要

会期：2024年5月27日（月）から6月9日（日）

会場：スパイラルガーデン（スパイラル1F）（東京都港区南青山5-6-23）

開場時間：11:00 ～ 20:00

※5月27日（月）のみ開場16:00～

チケット：無料

主催：KOI NIPPON、ISSP Latvia、Juhan Kuus Documentary Photo Center

助成：Baltic Culture Foundation、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル

東京【芸術文化魅力創出助成】、東芝国際交流財団、Lithuanian Council for Culture

提供：SIGMA、Artglass

メディアパートナー：ENCOUNTER MAGAZINE

公式ウェブサイト：<https://humanbaltic.com/ja/>

公式SNS：X @humanbaltic, Instagram @humanbaltic, Facebook 「Human Baltic」

ARアプリ「バルトの道」概要

開始時期：5月27日（月）～ 6月中

価格：無料

ダウンロード：アップルストア、グーグルストア

関連イベント概要

パネルディスカッション「写真に潜むダブル・スピーク（二重表現）」

同時代の日本の写真との比較を通して、バルト三国と日本の写真家が、目紛しい変化の中でどのように社会を記録したか探求します。戦後、急速な近代化を遂げた日本の写真家たちは、バルト三国の写真家達と同様、伝統と進歩のせめぎ合いを捉えてきました。これらのパネルディスカッションでは、レンズを通して日常生活を写し出す力強さに焦点を当て、日本とバルト三国の写真表現の伝統と、時代が芸術表現に与える影響力に関して模索します。

日時：5月30日（木）18：00 ～19：30

チケット：無料

ウクライナ難民支援チャリティーオークション

ウクライナ難民支援のお役に立てるよう、チャリティーオークションを行います。同オークションでは、ラトビア、リトアニア、エストニアのキュレーターが、バルト三国のヒューマニズム写真作家による30点以上の作品を紹介、参加者はプリント作品を購入することが出来ます。オークションでの収益金はウクライナ難民支援を実施している非営利組織に寄付します。

日時：6月4日（火） 18：00 ～19：45

チケット：無料